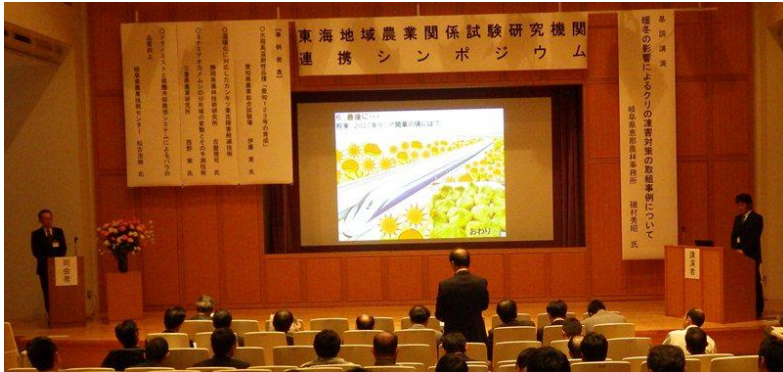


岐阜県農業技術センターニュース No.28

地域温暖化に向けて農業研究はいま何をすべきか

—東海地域農業関係試験研究機関連携シンポジウム開催される—



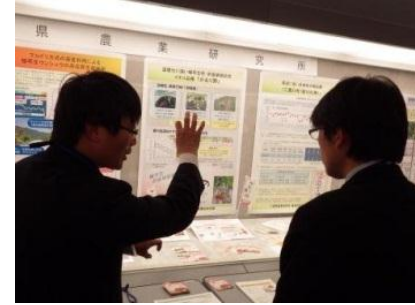
恵那農林事務所農業普及課の基調講演



農業技術センターから事例発表

愛知・静岡・三重・岐阜県の農業関係試験研究機関は、平成23年度に研究協定を締結して研究を推進しています。

その一環として連携シンポジウム「地球温暖化に向けて農業研究はいま何をすべきか」を11月20日に岐阜県立図書館にて、関係機関・一般県民を含め、約120名の参加のもと開催しました。



研究成果のパネル展示

基調講演では、恵那農林事務所から温暖化に対応するクリ産地の普及と試験研究が一体となった取り組みを発表し、各県の事例では他分野におけるその技術開発の現状と成果について発表を行いました。本センターはドライミストを利用した環境調節・バラの品質向上技術について報告しました。

パネル展示では、今回のテーマに関する研究成果等を26課題を展示し、私たちの活動を紹介しました。

シクラメン葉腐細菌病の防除マニュアル作成(生物機能研究部)

シクラメン葉腐細菌病について、感染経路を把握し、効果的に菌密度を低下させる方法などをまとめた防除対策マニュアルを作成しました。

本マニュアルは県内指導機関や生産者に配布しており、シクラメンの安定生産に活用されています。



シクラメン葉腐細菌病菌の感染株



作製した防除対策マニュアル

ヘタムシコン®が広く利用されています(環境部)

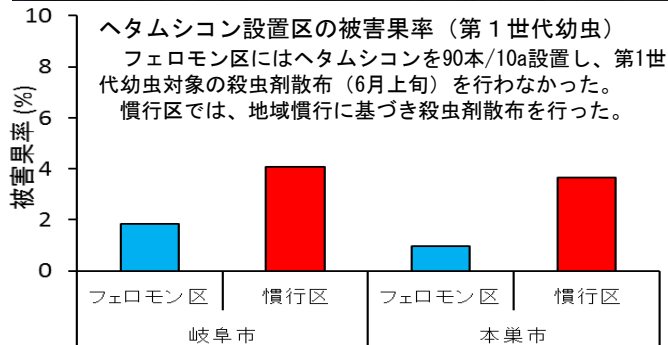


当センター開発のカキノヘタムシガの新規交信攪乱剤「ヘタムシコン」が、今年から販売開始されました。

各地区農林事務所などのご協力のもと、販売初年度にも関わらず、約70haのほ場でご利用いただきました。

現地の実証ほ場では、殺虫剤を散布しなくても慣行防除区よりも被害果率を抑えることが確認でき、高い防除効果が確認できました(左グラフ)。

安全・安心な岐阜のカキ生産にむけ、より多くのほ場でご利用いただけるよう、今後とも技術支援に努めます。



第41回全国カキ研究大会が開催されました(野菜・果樹部、環境部)

8月26~27日に第41回全国カキ研究大会(全国果樹研究連合会、岐阜県園芸特産振興会共催)が23年ぶりに岐阜県で開催されました。全国のカキ生産者や指導機関の関係者等約800名が参加しました。

2日目には、2班に分かれて当センターと現地ほ場3か所の視察が行われ300名強の方が訪れました。

当センターでは、ほ場視察をしながら、「省力かつ農薬飛散を抑えた害虫防除に関する研究」や「中生甘カキ‘太秋’の高品質安定生産技術の開発」等の研究成果の紹介をしました。全国の生産者から熱心に質問がなされ、大盛況のうちに大会は終わりました。



人事異動(平成26年11月1日付)

よろしくお願ひします

転入者	新所属	旧所属
野田 佳宏	作物部 研究員	新規採用
若山 恵里那	総務課 主事	新規採用

転出者	新所属	旧所属
川部 満紀	農産園芸課 技術主査	作物部 専門研究員

岐阜県農業技術センター

〒501-1152 岐阜市又丸729-1

Tel 058(239)3131

<http://www.g-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>

池田試験地

〒503-2407 揖斐郡池田町般若畑631-11 Tel 0585(45)3837